会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成29年度第1回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏推進委員会
開催日時	平成29年11月30日(木) 午後3時30分～午前4時30分
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議 題	(1) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の取組事業の評価等について(対象:平成28年度実施事業) (2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏における取組事業の新規・拡充等について(平成30年度以降実施分) (3) その他 高松市のまちづくりについて ・高松市都市計画マスタープランについて ・高松市立地適正化計画について
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	
出席委員	会長 大西秀人、副会長 森川輝男、大山茂樹委員、高嶋正朋委員、藤井秀城委員、三枝邦彦委員、井上正清委員、松尾俊男、森口久士委員、筒井敏行委員、西丸一明委員、濱中満委員、小林眞一委員、前田武俊、碓石眞己委員
傍 聴 者	0人 (定員5人)
担当課及び連絡先	政策課(839-2135)

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

**(1) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の取組事業の評価等について
(対象:平成28年度実施事業)**

資料1、参考資料について事務局から説明。

(委員)

本市の評価は、比較的評価の低いC・D評価に偏っている。評価の基準に少しズレがあったのかもしれない。本市は高松市に隣接していることもあり、今後、A・B評価が少しでも多くなるよう連携事業を進めていきたい。

(委員)

本市では、評価が非常に高くなっている。これは期待の部分が入っている。欲を言えば、連携の取組や効果が一般の方にも分かり易くなればと思っている。

(委員)

公共交通の分野で、フェリーとバスを一体とした交通体系の協力ができないかと思っている。かなりの人数が通勤・通学や通院のために、小豆島から高松に来ている。そういった人は船を使ったあと、バスを利用する。また、かつて阪神淡路大震災の際には、船の航路が優先されて見直されたという経緯がある。このあたりのことも含めて、もう少し突っ込んだ議論ができればと思っている。

**(2) 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏における取組事業の新規・拡充等について
(平成30年度以降実施分)**

資料2について事務局から説明。

(委員)

資料5ページの移住交流促進事業拡充の一番下、KPIのところ、圏域全体での社会増を平成28年度の472人から35年度に1,850人を目指すとのことだが、この目標値の積算方法があれば教えていただきたい。

(事務局)

平成35年度の目標値については、創生総合戦略などにおいて、各市町の方で目標としている社会増の数値を合計し、設定した。

(会長)

それは、圏域外からの転入者の数字を積み上げているのか。

(事務局)

圏域内での移動については、プラスマイナス0になる。基本的には、圏域外からの呼び込みということになる。

(会長)

圏域外からのやり取りで、1,850人の社会増を目指すという趣旨で、平成28年度の472人というのは、圏域外から来た人と圏域内から出た人の差引がプラス472人だったということである。

(委員)

高松市の社会増の目標値は、圏域内からの転入者も含めて設定しているのか。

(事務局)

高松市単独の目標では、圏域内からの転入者も含んでいる。

(委員)

資料1ページの圏域若者会議では、メンバーが14名ということだが、これは各市町のJCと商工会等から1名ずつなのか、それともこの地区の若い方2名程度ということか。

次に2ページの誘客促進事業観光連携協議会で目標を6,640千人としている件について、平成28年度は瀬戸芸の影響があったため目標を上回っているとのことであるが、来年の4月1日に高松空港の路線が増えると聞いている。当然お客さんが増えると想定されるので、ここは7,000千人くらいとしても良いのではないか。

最後に6ページのビジョンから削除する事業のうち、観光プロモーション事業については、残しておいて、様子を見て良いのではないか。

(事務局)

基本的には、それぞれの地域から人を出していただくという形を考えている。各市町から何名かずつ出すのか、そこの地域のJCや商工会の方を選出するのか、どのような形で選出するのかについての具体的な想定はまだできていない。今後、JCや商工会の方とも詳細を詰めていきたい。

誘客の目標数値は、総合計画などの計画において、目標を定め、公表している数値を根拠としているので、ここで目標値を変更するということがなれば、根拠としている計画の数値も変更しなければならない。これについては、ビジョン懇談会でも御了解をいただいている。

観光プロモーション事業については、一旦終了という形になるが、観光に関する施策はもちろん続けていくと聞いている。これについては、観光交流課から説明する。

(事務局)

観光プロモーション事業については、これまで観光コンベンションビュ

ローを主体として実施してきたが、連携があまりできていない面もあった。次ページのところで説明するが、観光の連携事業に関する協議会を新たに設置することもあり、今後は、そこで周遊型の観光事業を連携市町と一緒に考えていきたい。

(会長)

目標値を根拠なしに動かすことはできない。今言われたように、空港が民営になって、今の運営会社の提案としては、海外路線として新たに、北京、シンガポール、バンコクを就航するよう目指したいという意欲があると表明はされている。ただし、来年度すぐの実現とはいかないかもわからない。従って、この目標値を大きく上回るように、それぞれみんなで頑張っていくということで、御理解をいただきたい。

(委員)

連携中枢都市圏としての取組事業として妥当かどうか分からないが、現在、木田郡は三木町だけであり、香川郡は直島町だけとなっている。以前は、郡内で連携し、文化・スポーツ・芸術などの事業を実施していたが、今ではできなくなってしまった。中学校の総体だけは、高松市と一緒にできているが、小学校や幼児教育といったところは機能していない。特に幼児教育の職員の研修等をこの広域の中に入れていただけると非常に助かる。来年度か、無理なら再来年度からでも結構なので、そういった郡の中で1町しかないところがあることを考えていただいて取り組んでいただければと思う。

(会長)

素晴らしい提案だと思う。また、研修などは合同でやった方が効果も上がる。できることについては、広げていきたいと思う。できる分野から具体的に御提案をいただきながら、進めていきたい。

(委員)

観光プロモーション事業について、再度聞きたいが、コンベンションビューローを中心とした観光事業は、かつて非常に成果を挙げてきた。旅行会社を始めとして、非常に多くの企画を行ってきた。その結果、外国からのお客さんも増えてきている。これを廃止せずに、もう一つ上積みして、外国人観光客の受入体制や圏域周辺のところまで巻き込んだ事業に展開にできないか。

(事務局)

現在、インバウンドが増えており、その受け入れ態勢については、喫緊の課題となっている。今後は、その辺のところについても、連携中枢都市圏の中で、一緒に考えていきたいと思っている。観光プロモーション事業は、ある程度年数も経過し、一定の成果もあったが、一方で連携ができていないところもあったので、今回、新たに誘客促進事業観光連携協議会を立ち上げさせていただくこととした次第である。今まで実施してきたことも含めて、協議会の中で連携市町と一緒に考えていきたい。

(会長)

それでは、新規・拡充事業等については、事務局から説明した通り進めていくということによろしいか。

(全委員)

異議なし。

(3) その他

高松市のまちづくりについて

- ・高松市都市計画マスタープランについて
- ・高松市立地適正化計画について

(資料) 高松市都市計画マスタープラン、(資料) 高松市立地適正化計画について事務局から説明。

講演会の開催について

開催日時等について事務局から説明。

(委員)

綾川町では岡本にコミュニティバスを乗り入れているが、地域公共交通再編事業の中で、岡本、端岡間のバス路線の強化をいただくと、南北の公共交通が強化され、まちづくりの面で綾川町にとっても大変有りがたいと思っている。

(会長)

端岡駅については、高松市としての懸案でもあり、検討していきたい。

(会長)

それでは、以上で本日の会議を終了する。